



KANSAI
UNIVERSITY



CTL

Kansai University Center for Teaching & Learning

Newsletter



関西大学 教育開発支援センター
ニュースレター

June 2022

vol. 39



主体的・対話的で 深い学びを促すための心理的安全性

教育推進部教授 山田 剛史



2022年度に入り、依然として新型コロナウイルス感染症への脅威は残るものの、対面授業を中心とした教育・学習へと戻りつつあります。この2年間の遠隔授業をめぐる挑戦は、教職員のみなさまにどのような気づきや成長をもたらしたのでしょうか。私自身は、こんなにも大学教育や授業のこと、学生一人ひとりの学びや成長のことを考えたことはなかったのではないかと思います。様々な気づきや発見があり、試行錯誤の中で教育者としても成長できたと痛感しています。

教学IRプロジェクトでは、コロナ禍での学生の学びと成長を把握し、教育効果を高めるために必要なものは何かを探究するべく、半期に一度のペースで全学学生調査を実施してきました。2021年度には教員調査も実施し、それらの結果は教学IRプロジェクトのHPに掲載しています。その中で、授業形態(対面・遠隔)に関わらず、質問やふ

り返り、課題やレポート等に対する教員からのフィードバックが、学生の学習効果を高めるといった知見が見出されました。私自身も授業の中で積極的に取り組んでいます。各種データからも学生の主体的で深い学びに大きく寄与していることが窺えます。

本稿では、主体的で深い学びにも影響を及ぼしうる対話的な学びの活性化に関わる問題を取り上げたいと思います。それは「心理的安全性(psychological safety)」と呼ばれるもので、組織開発の文脈で注目されている概念です。これは、チームメンバーに非難される不安を感じることなく、安心して自身の意見を伝えることができる状態を指します。学生は様々な不安を持って授業に臨んでいます。無知・無能だと思われるだろうし、間違えたらどうしよう、真面目なことを言って浮いてしまったらどうしようといった不安です。こうした不安がとり

わけ対話的な学びを阻害してしまっています。教員から見れば、グループワークで積極的に発言しない、オンライン授業で画面オンにしない、ブレイクアウトで発言しないといった現象として表れると思います。高校までと違いクラスという概念がほとんどなく、同じ教室にいても全くの他人です。学生が抱える不安に意識を巡らせ、その不安を取り除くことが学びの質を高める上で最優先だと考えます。授業と直接関係のない無駄な時間と思えるものでも、学生にとってはとても重要な営み(急がば回れ)です。コロナ禍のオンライン授業を通じてこのことの大切さに気づくことが出来ました。紙面の都合上、具体的な実践を挙げることは叶いませんが、心理的安全性が確保出来た時の学生の学びと成長は眼を見張るものだと日々実感しています。

活動報告

2021年度ライティングラボ活動報告

昨年度は延べ1,016件の個別相談に対応し、過去5年間では最多の相談件数となりました。うち秋学期は437件で、例年と比べて秋学期の相談が顕著に多くなりました。また、春季・夏季に特別開室を実施し、計75件の利用がありました。特別開室は交換派遣留学希望者を主な対象として実施していますが、好評のため、今年度も継続して実施予定です。

相談方法別では、半数以上の相談がオンライン（Zoom）での対応となりました。曜日別では、月～水曜は比較的空きがある一方で、週の後半となる木・金曜は混雑することが多くなっています。時間帯別で

は、早目の時間に予約が多くなる傾向にあります。学年別・種類別では、春学期は1年生のレポートに関する利用が多く、秋学期は4年生や大学院生の卒業論文・修士論文に関する相談が多くなっています。

利用者アンケートでは、「ライティングラボに来室した目的は、達成できましたか?」という設問に対して、99%が「達成できた」「まあまあ達成できた」と肯定的な選択肢で回答しており、利用者の満足度が高いことが伺えます。

ライティングラボでは、「レポート課題が課されたが何から手を付ければよいかわからない」というような初期段階の相

談から、「スライドが一通り完成したので発表練習したい」というような完成直前の相談まで、幅広く対応します。大学院の博士課程後期課程の学生などのチューターが約20名在籍しており、日々さまざまな相談に対応しています。

詳しくは、ライティングラボのWebサイトにある「利用案内（教員向け）」のページをご参照ください。

（ライティングラボ アカデミック・アドバイザー 大西 洋）



2022年度春学期アカデミックスキルワンポイント講座を実施しました

2022年度の春学期には、アクティブ・ラーニング型のワンポイント講座を16回実施しました。アカデミックスキルコース10回と実験・調査コース6回をそれぞれ行いました。各講座の前半は、講師がレポートの書き方等に関する基礎的な知識やスキルを教えました。後半では、学生が中心となり、個人ワーク、ペアでのシェア、全体発表などを行いました。

昼休みの30分限定で、授業外で任意参加の講座ですが、多くの学生に参加いただきました。知らない人の前で自分の意見を述べるのはなかなか難しいことですが、

自ら手を挙げて発表する学生も多く見られました。今後も、学生が気楽にレポートの書き方を習得できるような場を提供しますので、是非ワンポイント講座の情報を学生のみなさんにお知らせいただければ幸いです。

各講座を収録した動画と資料は、ライティングラボのWebサイトにある「ワンポイント講座」で公開しております。ぜひご活用ください。

（教育推進部特別任用助教 張 曉紅）

アカデミックスキル コース		実験・調査 コース
大学での学習は、基本的にはアカデミックスキルを学ぶコース		授業の成績レポートや、データ分析について学ぶコース
1 4月5日 (火)	ノートテイキング	1 4月8日 (金) 実験レポートの書き方
2 4月12日 (火)	レポートを書く手順	2 4月15日 (金) 実験レポートに書く内容
3 4月19日 (火)	レポートのテーマを決めよう	3 4月22日 (金) 実験レポートの文章表現
4 4月26日 (火)	レポートに書く内容と順番	4 5月13日 (金) 初めてのアンケートの取り方
5 5月10日 (火)	レポートに必要な資料の探し方	5 5月20日 (金) データの「平均」の見方
6 5月17日 (火)	コピペがめんどくさい! 活用する方法を学ぼう!	6 5月27日 (金) グラフの読み解き方
7 5月24日 (火)	レポート用の文献選び	場所 第4学舎 4号館 1階 4102教室 (エレベーターホール内) 
8 5月31日 (火)	プレゼンテーションの方法	
9 6月7日 (火)	スライド資料の作り方	
10 6月14日 (火)	卒論に向けた研究の方法を学ぼう!	
場所 第1学舎 1号館 2階 A201教室 (学習室・404号室)		

スポーツ・フロンティア(SF)入試入学者を対象に「文書作成能力向上講習会」を実施しました

スポーツ・フロンティア(SF)入試で入学した116名の学生を対象として、春学期に3回の「文書作成能力向上講習会」を実施しました。この講習会は、レポートや論文など、今後の大学生活で様々な文書の作成が必要とされることを踏まえ、文書作成能力を向上する機会を提供することを目的としています。

各回の講習会では、文書の作成に必要な事項について扱いました。3/31(木)の講習会では、レポートと作文・小論文の違いや、レポートで扱う「問い」に対する「主張」を「根拠」つきで提示することな

ど、レポート作成の基礎となる事項を扱いました。5/25(水)の講習会では、序論・本論・結論の構成や段落の構成、文の基本的な形式など、レポートの構成と文章表現について扱いました。6/13(月)の講習会では、「根拠」として活用できる文献の検索方法や、文献の読み方と引用、推敲の方法などを扱いました。

また講習会と連携して、対象の学生にライティングラボの個別相談を利用してもらい、個々の学生が感じている文書作成の課題について、ライティングラボのチューターに相談できる機会を提供しま

した。引き続き秋学期にも、より具体的な文書作成能力について学ぶ機会を設ける予定です。

（ライティングラボ アカデミック・アドバイザー 大西 洋）



講習会の様子

日程：2022年3月31日（木）
5月25日（水）
6月13日（月）

FD Caféを開店しました

日程：2022年4月20日(水)

4月20日に本年度第1回目のFD Caféを開店いたしました。本店においてFDとはFree Dialogueを意味します。ご来店いただいた方々に自由に語り合う場を提供しています。今回は20名が来店されました。また、前田学長と大津留副学長両先生のご臨席を賜りました。新年度が始まって間もない時期なので関大生の実力を把握できておらず、どの程度のチャレンジが妥当なのかを模索中であるという声がある一方で、毎回のように講義に対して「ありがとうございました」という感想が寄せられることに感嘆の声があがるなど、三週間足らずの間に気付いたことを自由闊達に話し合っていました。授業の冒頭でクイズを出してアイスブレイクをする、紙芝居のようにプレゼンテーションを進

めるといった授業における創意工夫を共有することもできました。大教室でのグループワークはサポートが手薄になってしまうこと、グループによってワークへの集中度にばらつきがあることなど、苦労されていることも話題にのびりました。PBLや反転授業、ルーブリックの導入を考えているが、有益な情報がほしいという声もありました。開店時間内ではお伝えできなかったことについては、CTLの教職員が対応いたしますので、いつでもお気軽にお訪ねください。なお、本店は原則として本学に着任してから3年以内の方を対象としていま

すが、興味を持たれた方については、その限りではありません。また、コロナ禍の収束後には、夕刻にFood & Drinkの場を設けたいと思います。是非、足をお運びください。

(教育推進部教授 三浦真琴)



FD Caféの様子

コンシェルジュカウンターを開設しました

日程：2022年4月5日(火)～2022年4月18日(月)

教育開発支援センターは4月5日(火)から18日(月)まで、千里山キャンパス第2学舎1号館の教務センター前「KITENE」にて「コンシェルジュカウンター」を開設しました。

本取組は、2021年10月～2022年1月に教育開発支援センターが実施したFD・SD研修を修了した入職2年目の若手職員がコンシェルジュとなり、主に新生が抱える不安や悩みへの初期対応、大学のサービスやプログラムの紹介などを通して、学生生活に対する不安の解消と期待を持ってもらうことを目的に、昨年度より実施しています。

10日間の実施で260件もの相談があり、学生からは「誰に聞けばよいかわからないことを気軽に聞いてもらえる場所があって助かりました。」との声を受けました。

一方、対応する職員からも「大学で働くことの意義や、働く上で必要となる傾聴力・提案力を養える場になった。」との評価を受けました。

今後も教育開発支援センターは、様々な側面から学生の学びを全力でサポート

していきます。

(教育開発支援室 飯島直樹)



学生対応の様子

教学IRプロジェクト報告

入学時調査を実施しました

教学IRプロジェクトは2022年度の本学入学生(6,966名)を対象として、入学時調査を実施しました。入学時調査はすべての学部において記名式で行われ、ウェブ上で回答を求めました。回答率は92.6%であり、例年と同様に高い回答率となりました。現在、全学の集計資料と、学部ごと

の集計資料の作成を進めています。また、単純な集計資料だけではなく、入学時調査の回答データと種々の学事データを組み合わせた分析も学部の要望に合わせて準備し、2021年度卒業時調査の結果と合わせて、順次、学部ごとに教授会や執行部会にて報告と説明をさせていただき

ます。加えて、主要な結果を抜粋してポスターを作成し、学内の各所に掲示する予定です。入学時調査によって得られたデータに基づいて本学の学生の特徴を明らかにし、教育活動の改善の方向性を探るためにデータを活用していきます。

(教育推進部特別任用助教 矢田尚也)

新任教職員紹介

教育推進部



教育推進部准教授

ヤマダ ヨシノリ

山田 嘉徳

4月1日に着任しました山田嘉徳と申します。専門は学習研究で、これまで大学教育を主なフィールドとして、学生同士による学びの協同的なプロセスに着目しながら、効果的な教育実践のあり方を探究する実践研究を進めてきました。教える体制の基盤や前提を学びの現実にも照らしつつしっかりと見つめながら、一人ひとりの関大生の成長をよりよく支援できるあり方を共に模索していきたいと考えております。皆さまにお力添えを頂きながら、学習研究の視点を活かしてよりよい学びの環境づくりに取り組んで参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



教育推進部特別任用助教

チョウ アキコウ

張 曉紅

2022年4月に、教育開発支援センターの特別任用助教として着任しました。前職は、大学の特定事業研究員として、実務家教員養成に関連したオンライン教材の開発、プロジェクトのマネジメント、受講生のサポートを担当していました。

関西大学では、現状として、レポートの書き方に悩みつつ取り組む学生が多いようです。レポートに限らず、多くの方がライティングを楽しめるよう、アクティブラーニング型講座や教材などを提供できればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

教育開発支援センターからのお知らせ

関大LMSの機能拡張を行いました

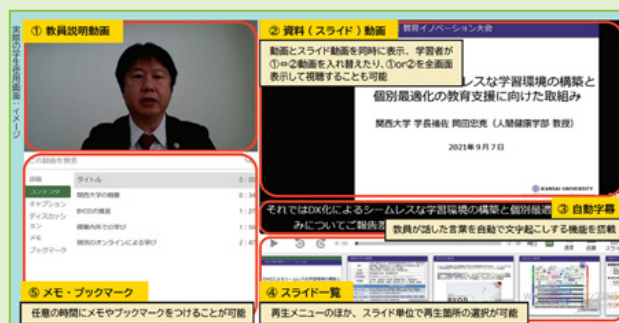
関西大学では、動画の収録・編集・配信を一元管理できるクラウド型動画編集配信ソフト（Panopto（パノプト））を全学的に導入し、関大LMSの機能拡張を行いました。

学生にとっては、従来通り関大LMSから科目コースの資料動画へアクセスするだけで、動画の視聴と資料の閲覧を1画面で完結することができるほか、動画にブックマークやメモをする機能を利用することで、繰り返しの学習をスムーズに行うことができます。

教員にとっては、関大LMS上でPanoptoを起動し、そのまま関大LMSから作成した動画を配信することで、動画と資料の同時配信が可能となり、自動字幕をはじめとした様々な編集機能を利用することで、学生が学びやすい学習環境を構築することができます。また、学生の視聴履歴や視聴完了率などを確認することも可能です。

オンデマンド配信授業への活用や対面授業に出席できない学生に対する授業動画の提供、動画による事前学習と対面授業を組み合わせた「反転授業」などに活用できますので、是非積極的にご利用ください。

(教育開発支援室 上田果歩)



マニュアル等はこちら



お問い合わせ先

Panoptoの内容や操作全般について
kulms@ml.kandai.jp

学内説明会等に関することやその他について

ctl-staff@ml.kandai.jp

「明るく、元気に、笑顔で！これで貴殿は百人力です。」

これは2年前に入職して間もない頃に、当コラムを執筆した私が、尊敬する人から頂いた言葉である。あの頃は新型コロナウイルスの影響により、誰もが一歩先の未来を予測することができない状況

で、何もわからない私は夢中で過ごす毎日だった。そこから2年が経ち、少しは成長できているだろうか。まだまだ至らない点も多いが、現在は仕事にも慣れ、自分自身でできることも増えてきた。FDやSD、IRの業務に携わって、教員や職員、学生と関わり、多様な価値観に出会うことで、多くのことを吸収することができている。だ

が、まだまだ学びは止まらない。止めてはいけない。その気持ちを忘れず、一人の職員として百人力だと思われるように、日々成長していきたいと思う。

明るく、元気に、笑顔で、学生に寄り添える職員を目指し、卒業時に学生が関大に来てよかったと思えるようにサポートしていきたい。（瑛）

KANSAI
UNIVERSITY

関西大学 教育開発支援センター Kansai University Center for Teaching & Learning

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL: 06-6368-0230 FAX: 06-6368-1514

<https://www.kansai-u.ac.jp/ctl/index.html>

発行日/2022年6月22日 編集・発行/関西大学 教育開発支援センター